

## 第 17 課 接続法(2)

### 3) 間接話法 - 接続法 式または 式 -

Er sagte: "Ich habe keine Zeit." (「時間がない」と彼は言った) (直接話法)

Ersagte, er habe keine Zeit. (時間がないと彼は言った) (間接話法)

他の人が言ったことや書いたことを引用符をつけてそのまま引用するのは直接話法です。

これに対して引用符を外し、自分の言葉に直してから間接的に引用するのが間接話法です。

間接話法には接続法 式が用いられます。

Sie sagte: "Ich bin müde."

Sie sagte, sie **sei** müde. (疲れていると彼女は言った)

Sie sagt: "Ich war damals krank."

Sie sagt, sie **sei** damals krank **gewesen**. (そのとき病気だったと彼女は言う)

接続法 式が直説法と同形の場合には、接続法 式が用いられます。

Die Kinder sagten: "Wir haben kein Geld mehr."

Die Kinder sagten, sie **hätten** kein Geld mehr. (もうお金がないと子供たちは言った)

疑問文の場合、疑問詞があればそれを従属の接続詞として用い、決定疑問文の場合には従属の接続詞 **ob** を用いて、それぞれ副文の形で表します。

Er fragte mich: "Hast du heute Abend Zeit?"

Er fragte mich, **ob** ich heute Abend Zeit **hätte**. (今晚暇があるかと彼がきいた)

Mein Vater fragte mich: "Was studiert dein Freund?"

Mein Vater fragte mich, **was** mein Freund **studiere**. (ボーイフレンドは何を専攻しているのかと私の父がきいた)

### 4) 非現実話法 - 接続法 式 -

単に空想されたものにすぎず、現実には存在しないこと、あるいは事実と反することを表現するには、接続法 式を用います。

( 1 ) 「もし……であれば、……なのだが」というように、事実に反することを条件として想定し、そこから導かれる結論を述べる表現があります。

これは「もしも……であれば」という仮定の副文と、「……なのだが」という推論の主文から作られ、いずれの文にも接続法 式が用いられます。

**Wenn** ich Zeit **hätte**, **ginge** ich mit dir ins Kino. (暇があれば、喜んで君と映画に行くのだが) <現在>

**Wenn** ich Zeit gehabt **hätte**, **wäre** ich mit dir ins Kino **gegangen**. (暇があったら、喜んで君と映画に行ったのだが) <過去>

時制が現在の場合、結論の部分は「**würde** + 不定形」でも表現できます。話法の助動詞、sein、haben 以外はこの書き方が普通です。

**Wenn** ich Zeit **hätte**, **würde** ich mit dir ins Kino **gehen**.

接続法の動詞を文頭に置けば、**wenn** を省略できます。

**Hätte** ich Zeit, **ginge** ich mit dir ins Kino.

**Hätte** ich Zeit gehabt, **wäre** ich mit dir ins Kino **gegangen**.

( 2 ) 仮定の副文が独立して用いられる場合、実現不可能な願望、愚痴の表現になります。

**Wenn** sie doch **käme**! (彼女が来てくれればなあ)

**Wenn** es morgen doch Freitag **wäre**! (明日が金曜日ならばなあ)

( 3 ) 仮定の副文なしに主文が独立して用いられる場合があります。仮定の部分は前後関係から判断できる場合もあれば、主文に含まれている場合もあります。

**Für seine Freundin würde** er alles tun. (ガールフレンドのためなら彼は何でもするだろう)

**Ich hätte** es nie **erlaubt**. (私だったらそれを決して許可しなかつただろう)

**fast, beinahe** をともなうと「あやうく……するところだった」の意味になります。

Das Kind **wäre fast ertrunken**. (その子供はもう少しで溺れるところだった)

( 4 ) **als ob, als wenn** で始まる副文は「あたかも……であるかのように」の意味になります。

ob, wenn が省略されると、定動詞は als の直後におかれます。

Sie sieht aus, **als ob** sie krank **wäre** (**als wäre** sie krank). (彼女はまるで病気のように見える)

Er tat so, **als wenn** er davon nichts gewusst **hätte** (**als hätte** er davon nichts gewusst). (彼はそれについては何も知らなかったようなふりをした)

(5) 「控えめな主張」や「丁寧な依頼」を表現する場合にも接続法 式が使われま  
す。

Ich **hätte** eine Bitte an Sie. (お願いしたいことがあるのですが)

Ich **möchte** mit Frau Sieber sprechen. (ジーバーさんに面会したいのですが)

**Wären** Sie bitte so freundlich, mir den Zucker zu reichen? (すみませんが、砂糖をとっていただけませんか)